

り組みが始まった。

このことから、自然災害と密接に絡む地学現象は、もっと身近な時間スケールで議論できるようにするべきであると感じる。

3. 地域防災計画の構成と地学現象との接点

地方自治体の防災計画は、災害予防計画、防災応急計画、災害応急計画などから構成され、各計画編には地学現象とそれぞれ密接な接点が見られる。主な項目を書き出してみると次のようになる。

①災害予防計画(平常時の対策)

基礎資料の蓄積：

地質や地盤条件、山地災害危険度などの自然災害要因の把握
想定地震断層、地震・火山の活動危険度、活断層や歴史地震の解析

土地利用の誘導：

軟弱地盤や洪水、地すべりなどの災害脆弱性の把握

②防災応急計画(警戒宣言時、災害の発生予測時の対策)

地震・火山噴火予知：

地殻変動の異常、地下水の変化、地震活動など(災害発生を事前に的確に予知できれば、人的被害は大幅に軽減される)

③災害応急対策(災害発生時、発生後の対策)

2次災害の防止：

余震活動、山崩れ・地すべりの再活動予測

防災対策の推進を図るためには、学術的な研究成果を積み重ねる一方で、防災対策への具体的な活用も重要である。地震活動や活断層、地下水現象などの地下で進行する地学現象について、地質調査所の基礎的な研究とその成果の具体的な活用が一層望まれる。

IWATA Takayoshi (1998) : Earthquake Preparedness Division, Shizuoka Prefectural Government.

<受付：1998年2月1日>



かわらの小石の図鑑

千葉とき子・斉藤靖二著、東海大学出版会
A5判、167ページ、定価2,500円(税別)
発行/1996年7月30日(第1刷)
1997年7月20日(第5刷)

この本は、荒川や、多摩川、相模川を例に、かわらにある石を調べるための手引きである。小石の表面と薄片の写真を示し、その特徴を丁寧に分かり易く説明している。小石のもととなった地層や岩石がどのようにしてできたかを理解する助けとして、川の上流の地質図と日本列島の生い立ちについてのやさしい解説もつけられている。写真にスケールがないが、多分実寸大なのであろう。写真のある各頁の側端の上のところには小石の表面の写真を短冊状に切り取って印刷してある。これはおもしろい工夫である。これがあるので小石を手に小石と写真とを直接照合することができる。「あじさいの唄」の漫画家、森 栗丸さんの手になる表紙の

イラストがすてきだ。赤い帽子をかぶったすらりとした女性と髭を生やしたやさしそうなおじさんが著者らしい。川面に石を投げて遊ぶ子どもたち。河原の石を前に腕組みをして語り合うおとなたち。とても良く売れているらしい。本屋でこの本を手にしたおとなは、子どもの頃、かわらで拾った石についてなんとはなしにあれこれ考えたことを思い出して買い求めているに違いない。

本の構成は、目次ははじめに || 荒川の石をあつめる/多摩川の石をあつめる/相模川の石をあつめる || 火成岩をあつめる/堆積岩をあつめる/変成岩をあつめる || かわらの石を見る/荒川/多摩川/相模川 || 石の薄片をつくる/偏光顕微鏡をつかって石を観察する || 日本列島の生い立ち、となっており、地質学になじみの薄いひとでも本をめくってみただけでかわらの石を調べてみようかという気になる。「かわらの小石の図鑑」は、かわらの石を題材に地質学を身近なものに感じさせてくれる好著である。(地質部 鹿野和彦)